

「お茶大インデックス」（雇用環境整備指標）を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2013 年度 結果

「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日：2013 年 12 月 13 日（金）～2014 年 3 月 3 日（月）

調査方法：Excel で回答可能な「お茶大インデックス」をメールにて送付・回収

配布機関：科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業（H18～H22）採択 55 機関、及び
女性研究者研究活動支援事業選定（H23～H25）34 機関の計 89 機関

回収数：37 機関（回収率 41.6%）

お茶大インデックス評価結果 37 機関の回答割合と全体的経年変化

37 機関のお茶大インデックス評価結果について、50 項目それぞれに平均値と 3 つの選択肢の回答割合を算出した。各項目の回答割合を用いて図 1 を作成した。

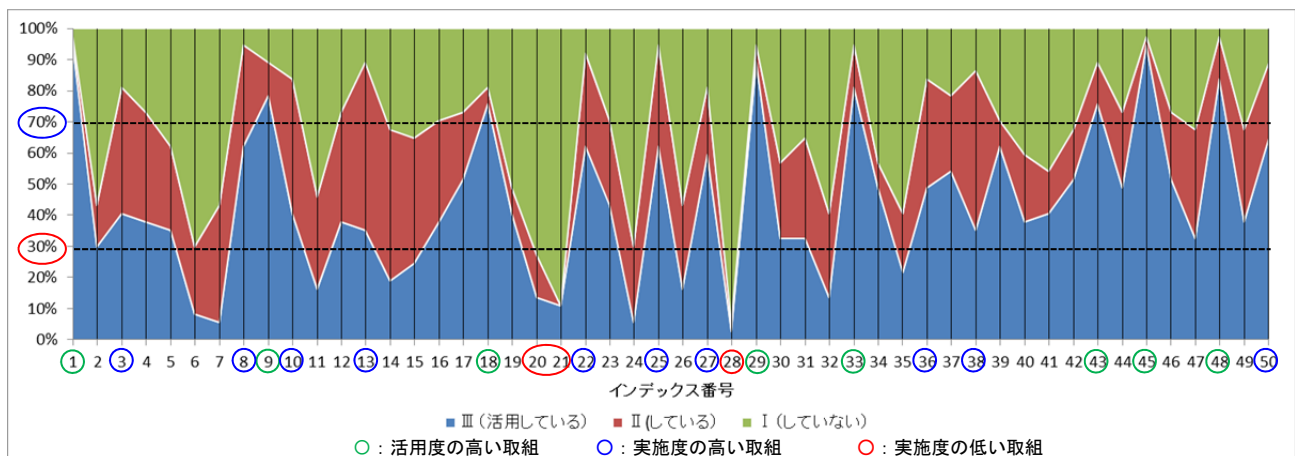


図 1. お茶大インデックス評価結果（全 37 機関、回答割合）

37 機関における活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答が多い項目）、実施度の高い取組（Ⅲ.活用している、Ⅱ.している）、低い取組（Ⅰ.していない）は以下の通り。（カッコはインデックス番号を示す）

活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』のみで回答割合が 70%以上）

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (33) ホームページによる情報発信 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 |
| (18) 保育施設の設置 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が 70%以上）

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| (3) 公正で透明性の高い公募を行うためのシステムの導入 | (25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知 |
| (8) 女性研究者における研究分野別・職階別の女性比率の把握 | (27) 子育てと研究のための相談窓口の設置 |
| (10) 業務を効率化するための取組 | (36) 女性研究者を支援するためのロールモデル情報の発信 |
| (13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知 | (38) 女性研究者間のネットワーク構築 |
| (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発 |

実施度の低い取組（『Ⅰ.していない』の回答割合が 70%以上）

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| (20) 学童保育施設の設置 | (28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入 |
| (21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備 | |

実施度の高い取組は、昨年度（2012）と同様に「支援組織の設置」、「女性比率の把握」、「予算配分」、「研究補助者の配置」、「情報発信」、「意識啓発」であった。一方、実施度の低い取組は、昨年度と同様の「学童保

育」、「宿泊施設」、「奨学金制度」であり、教育研究以外の業務への人員配置や経済的支援、設置場所の確保等が必要な取組は整備が未だ困難であることがわかる。

「Ⅲ.活用している」の回答が多くみられたのは、昨年度と同様に「支援組織の設置」、「予算配分」、「研究補助者の配置」、「情報発信」、「意識啓発」であった。特に、インデックス番号（29）子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置、(50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発については活用度が2011年度調査から年々高くなっており、女性研究者を支援する取組として高い効力を発揮していることがうかがえる。なお、活用度はそれほど高くないものの、その度合いが年々向上しているのは、インデックス番号(27) 子育てと研究のための相談窓口の設置、(41) 女子中高生向けロールモデルとの交流会の開催であり、相談窓口の設置やネットワークの構築が活用されつつある状況が明らかとなった。

一方、インデックス番号(24) 在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備（ネット対応、TV 会議等）は、実施度、活用度共に2011年度から年々低下している。これは、個々人が各自でユビキタス環境を整備できるようになり、大学として整備する必要性が低くなってきたためと考えられる。

上記の結果から、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関は、①支援組織を設置し、②予算配分や研究補助者を配置するとともに、③機関内で所有する情報（女性比率等）を整理して積極的に機関内外に発信し、④意識啓発を実施することにより、雇用環境を整備し、女性研究者を支援している状況が明らかとなった。

特に研究補助者の配置とワーク・ライフ・バランス実現に向けた意識啓発は活用度が高く、多くの機関で取り組まれていることから、支援活動として優先度の高い取組に位置付けられている。なお、教育研究以外の業務への人員配置や経済的支援、設置場所等による支援は困難であると回答する機関が多いことから、それらが必要としない支援方法も今後検討する必要があると言える。

お茶大インデックス 各機関の評価の経年変化

お茶大インデックス評価の経年変化を見るために、37 機関のうち3年間（2011～2013）回答いただいた14 機関についてのみ2012年度と2013年度の評価得点の差を算出し、得点の増減を示す図2を作成した。

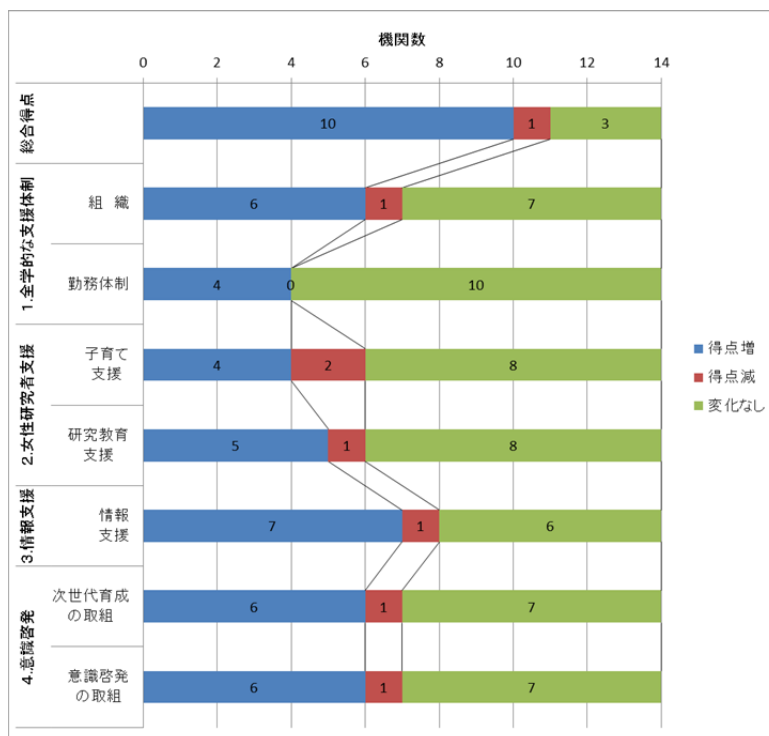


図2. 14 機関におけるお茶大インデックス評価得点の増減（2012年度→2013年度）

総合得点では、14 機関中10 機関で得点増が認められた。得点の増加が認められた項目は、「情報支援」（7 機関で得点増）をはじめ、「組織」、「次世代育成」、「意識啓発の取組」（いずれも6 機関で得点増）であった。

変化の詳細を確認するために、50 項目のインデックス評価得点それぞれにおいて 2012 年度評価と 2013 年度評価の得点差を算出し、得点の増減を示す図 3 を作成した。

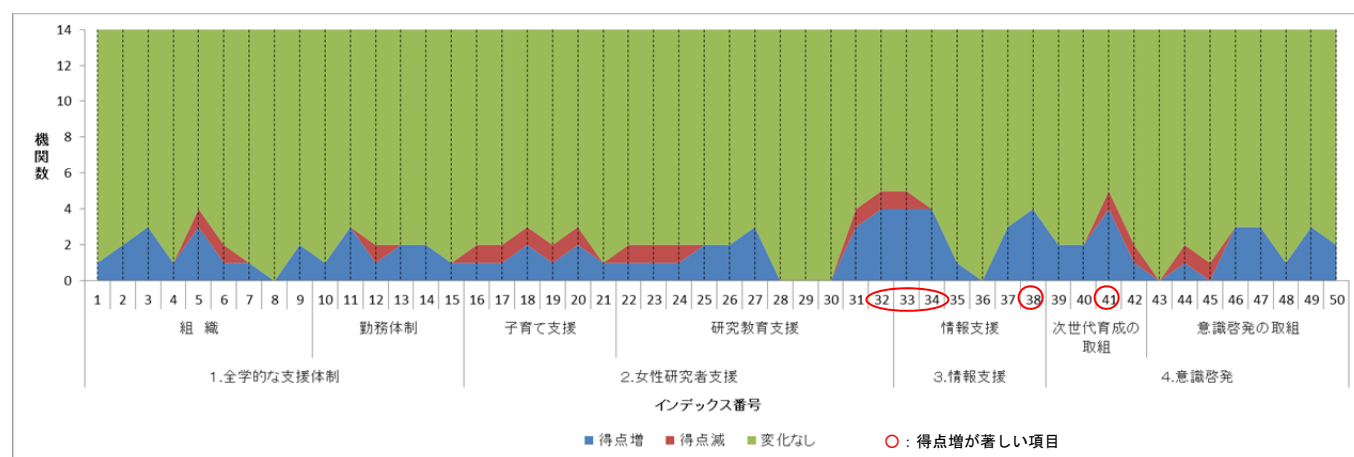


図 3. 14 機関におけるお茶大インデックス 50 項目の評価得点の増減（2012 年度→2013 年度）

得点の増加が多い項目は、インデックス番号（32）研究補助者のキャリアアップ支援、（33）ホームページによる情報発信、（34）子育て支援のための冊子作成、（38）女性研究者間のネットワークの構築、（41）女子中高生向けロールモデルとの交流会の開催であった。情報発信やネットワークの構築、支援者のキャリアアップにつながる取組に力を入れている様子がうかがえる。

図 3 からわかるように、得点減の項目は非常に少なく、2012 年度における 14 機関の総合得点平均値は 60.2 点であったのに対して 2013 年度は 64.3 点と上昇していることから、各機関の支援活動及び働きやすい雇用環境は向上傾向にあると言える。

お茶大インデックス評価結果 評価得点上位 10 機関・下位 10 機関の特徴

37 機関のうち、インデックスの評価得点上位 10 機関（平均 73.6 点/100 点中）の回答割合を用いて図 4 を作成し、評価得点下位 10 機関（平均 32.5 点/100 点中）の回答割合を用いて図 4 を作成した。

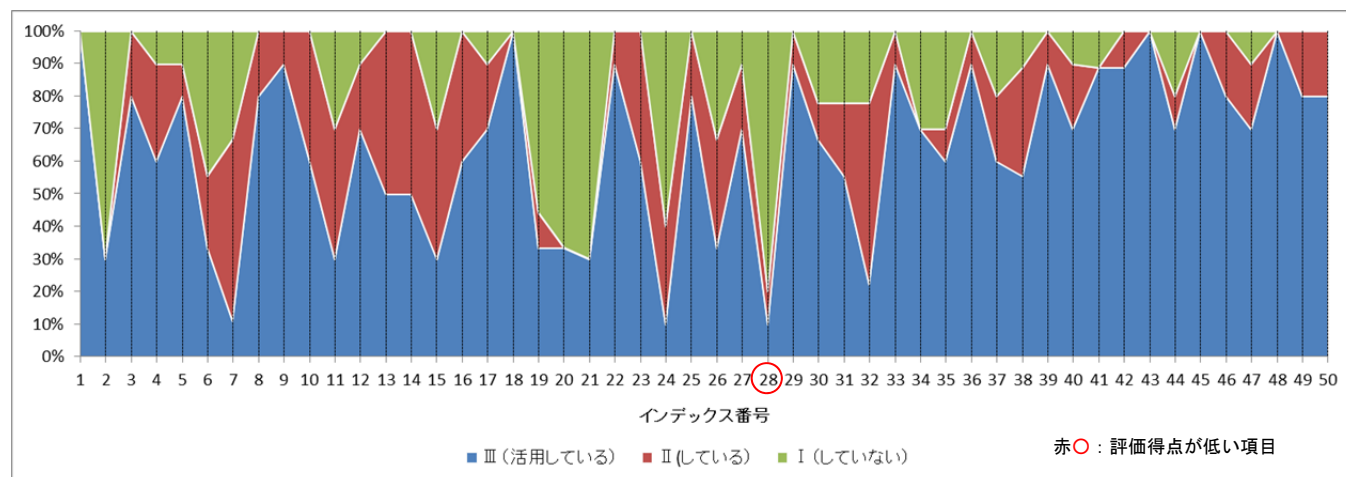


図 4. お茶大インデックス評価結果 （得点上位 10 機関）

図 4 から、得点上位 10 機関においても（28）学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入は「Ⅰ.していない」の回答が多く、この結果は 2011 年度から変化していない。この項目について、37 機関中「Ⅲ.活用している」、「Ⅱ.している」と回答したのは 2 機関（うち 1 機関は本学）であり、多くの機関で実施していないとの回答であった。今後、この支援方法が浸透しない要因を検討するとともに、支援による効果や有効性を明示する必要があると言える。

図5に示す得点下位10機関は、「I.していない」の回答が多いものの、インデックス番号（1）、（8）、（9）、（22）、（25）、（29）、（33）、（45）、（48）など、「女性研究者を支援する組織」や「女性比率の把握」、「柔軟な勤務体制の導入」、「『次世代育成支援対策行動計画』の周知」、「研究補助者の配置」、「ホームページによる情報発信」、「ハラスメント防止」、「男女共同参画に対する意識啓発」の得点は高く、中でもインデックス番号（1）、（29）、（45）については活用度も高い。

これより、支援活動を十分に実施できない状況においても、女性研究者を支援する組織の設置やホームページによる情報発信、ハラスメントを防止するための取組は実施しやすいといえる。

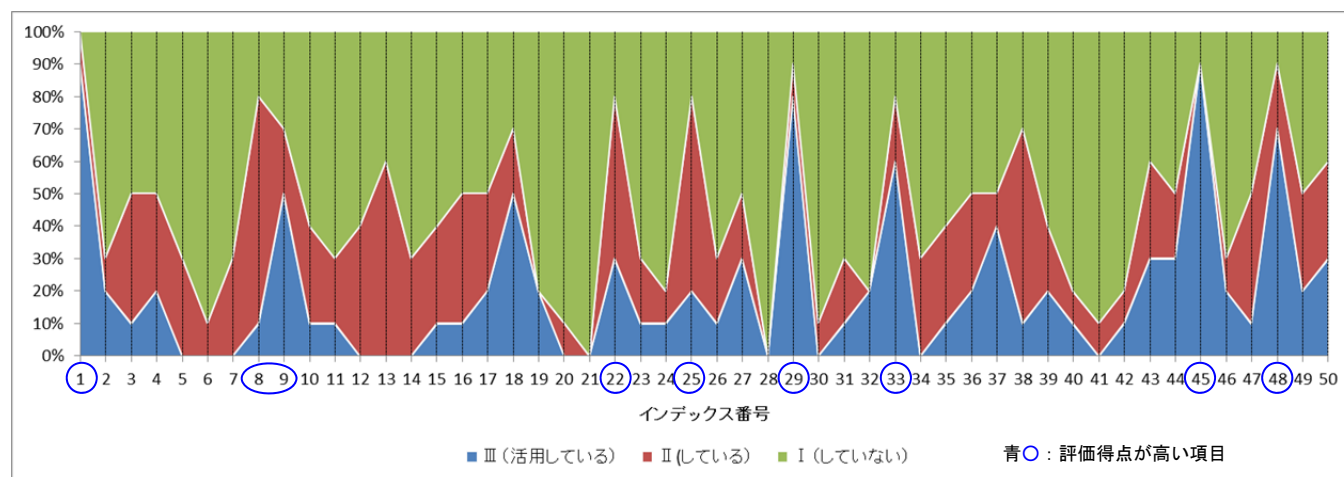


図5. お茶大インデックス評価結果（得点下位10機関）

お茶大インデックス評価結果 37機関における支援バランスの特徴

お茶大インデックスは、教育研究機関における雇用環境の整備状況を「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の7項目に大分類し、それぞれの細目を作成して50項目で構成されている。ここでは、7項目の活用バランス、すなわち支援のバランスがどのようなものであるかを明らかにするために、大分類された7項目それぞれに得点割合（100%は満点）の平均値を算出した。結果を図6に示す。

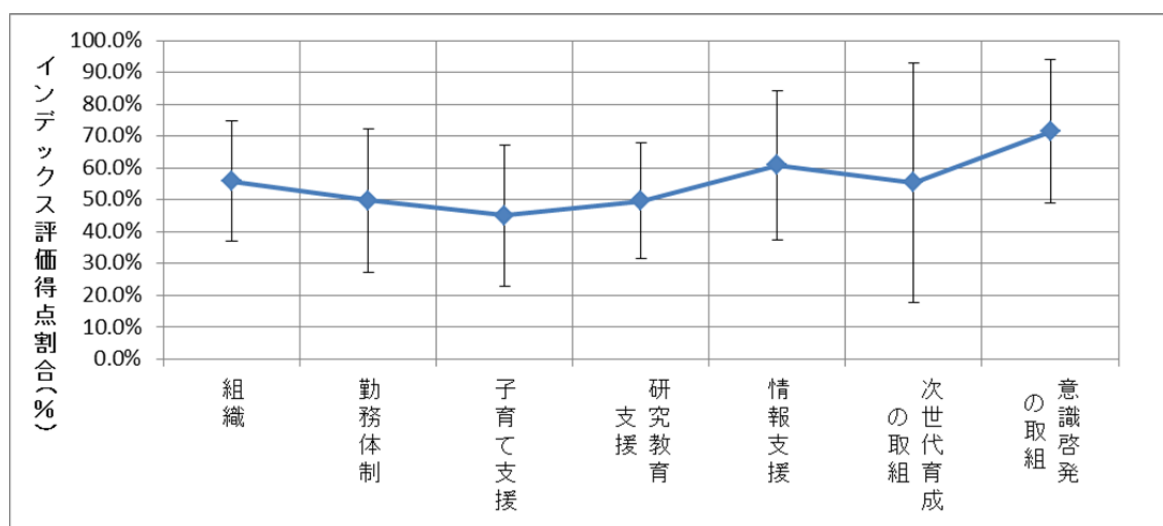


図6. お茶大インデックス 支援バランス（37機関における評価得点割合の平均値）

図6が示す通り、7項目のうち、「意識啓発の取組」の得点割合が最も高く、「情報支援」、「組織」、「次世代育成の取組」と続いている。しかし、「次世代育成の取組」についてはバラツキが大きく、実施できている機関とできていない機関に差がみられた。そこで、37機関それぞれに算出した7項目の支援バランス（得点割合）を用いてクラスター分析（類似性の高いものをグルーピングする方法）による解析を行った。

その結果、支援バランスの特徴により 37 機関を図 7 に示す 5 グループに分類することができた。各グループの特徴は以下に示すとおりである。

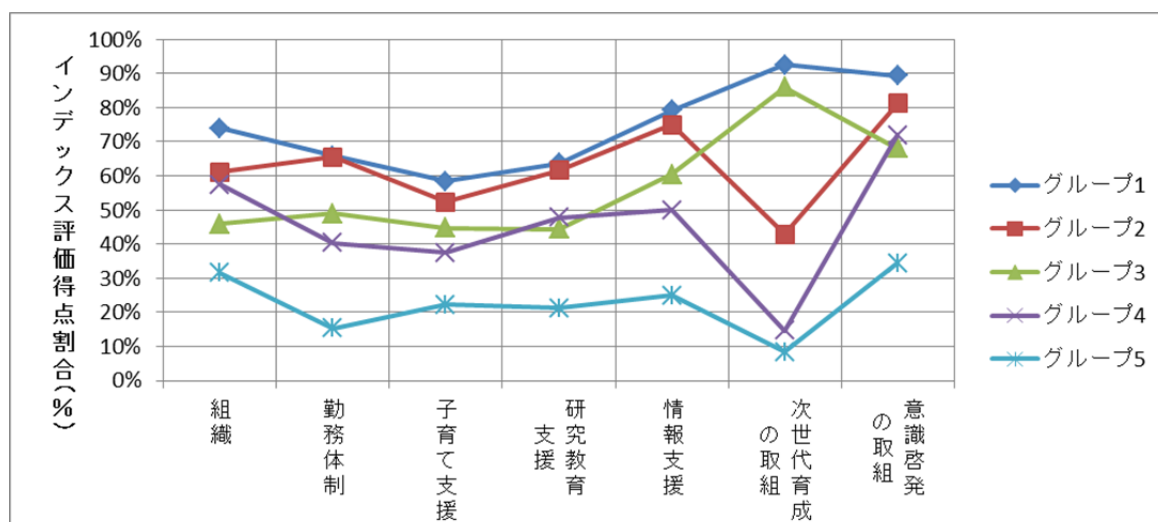


図 7. お茶大インデックス評価 37 機関における支援バランスの特徴

【グループ 1】 全体的に支援が行き届いている機関 （10 機関）

「次世代育成の取組」と「意識啓発の取組」の得点割合が特に高い特徴を有するグループである。総合得点が 65 点以上と高く、2010 年度以前に採択された機関で構成されている。

【グループ 2】 全体的に支援が行き届いているが、「次世代育成の取組」がやや弱い機関 （7 機関）

「情報支援」と「意識啓発の取組」の得点割合は高いが、「次世代育成の取組」の得点割合が他の項目と比較して低いという特徴を有するグループである。総合得点が 60 点台と高く、7 機関ともに国立大学である。

【グループ 3】 特に「次世代育成の取組」や「意識啓発の取組」に力を入れている機関 （8 機関）

「次世代育成の取組」については、グループ 1 と同程度の得点割合を示すが、グループ 1 やグループ 2 と比較して得点割合はやや低いという特徴を有するグループである。総合得点は平均点付近であり、地方大学や独立行政法人で構成されている。

【グループ 4】 「次世代育成の取組」は弱い、「意識啓発の取組」に力を入れている機関 （6 機関）

「意識啓発の取組」はグループ 1～3 と同程度の得点割合を示し、他の項目と比較して特に高い得点割合を示すグループである。また、他の項目と比較して「次世代育成の取組」が弱い特徴も有する。総合得点は平均点以下が多く、地方大学や独立行政法人で構成されている。

【グループ 5】 支援活動初期段階の機関 （6 機関）

他のグループと比較して全体的に得点割合は低く、総合得点は 30 点以下の支援活動初期段階の機関で構成されている。「組織」と「意識啓発の取組」において他の項目と比較して相対的に高いという特徴を有するグループである。

37 機関におけるお茶大インデックス評価結果 まとめ

女性研究者支援事業が開始されて 8 年が経過した。また、お茶大インデックスを用いた全国の教育研究機関の雇用環境評価も 4 回目となった。継続的な経年変化の分析では、増加傾向と減少傾向の取組みが明らかになった。さらに、今回初めて、クラスター分析を適用した。事業実施のステージ（期間）や機関の特徴（支援活動の期間、国立と私立、地方大学、独立行政法人等）に応じた支援バランスの特徴を抽出することができた。

雇用環境整備および女性研究者支援方法の改善に資するため、本調査を今後も継続的に実施し、統計データと分析結果を発信して行く予定である。

お茶の水女子大学における お茶大インデックス評価結果

お茶の水女子大学は、女性研究者支援モデル育成事業（2006 年度～2008 年度）を経て、2009 年度より本学独自の事業として雇用環境の整備と研究者支援を継続・発展させてきた。2011 年度の総合評価得点は 62 点、2012 年度は 68 点、今年度は 70 点となった。得点の増加がみられたのは以下の 2 項目である。なお、得点減の項目は見られず、これまでの支援活動が維持・拡大される結果となった。

<得点の増加がみられた項目>（カッコはインデックス番号を示す）

(41) 女子中高生向けロールモデルとの交流会の開催

⇒サイエンスフェスティバルでの OG パネリストおよび在学生との交流会を継続して開催している。

(46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発

⇒学内保育所の子どもたちと触れ合う企画を開催し、2013 年度は男性教職員の参加が増加した。

【付録】 お茶大インデックス評価結果 総合得点一覧

お茶大インデックスの評価結果（表 1）を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は 55.5 点（昨年度より 0.9 点増）、最高点は 83 点、最低点は 21 点であった。

表 1. お茶大インデックス 評価結果 （総合得点降順）

ID	「お茶大インデックス」得点							
	総合得点	1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組 織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援	次世代育成の取組	意識啓発の取組
最高点	100	18	12	12	22	12	8	16
017	83	16	12	8	14	11	6	16
054	83	12	6	12	17	12	8	16
030	76	9	10	10	17	8	8	14
021	74	15	9	6	13	11	6	14
008	73	10	9	6	16	9	8	15
026	73	15	7	5	14	8	8	16
お茶の水女子大学	70	14	8	7	13	8	8	12
019	70	15	6	4	13	10	7	15
033	67	13	5	9	12	9	7	12
035	67	11	10	6	14	7	4	15
038	66	11	10	4	13	10	2	16
049	66	13	7	4	16	10	4	12
015	65	14	7	3	11	9	8	13
018	63	11	5	9	16	6	4	12
034	63	11	8	6	14	10	3	11
056	63	12	7	6	11	12	4	11
004	62	9	6	6	13	7	8	13
043	62	15	7	8	13	5	0	14
046	61	8	8	9	11	8	3	14
016	60	10	6	5	10	10	6	13
031	56	9	7	9	4	7	7	13
036	56	8	7	4	12	6	8	11
040	52	9	7	5	11	5	6	9
020	50	7	5	3	13	7	6	9
052	50	15	5	6	8	6	4	6
001	49	6	6	4	7	9	8	9
041	49	9	4	6	12	4	0	14
047	49	8	3	7	8	7	6	10
032	47	7	4	4	8	8	0	16
003	43	10	6	1	12	6	1	7
042	42	6	3	2	10	7	2	12
014	31	5	1	2	9	6	2	6
053	25	7	3	2	2	5	1	5
051	24	9	3	2	3	0	1	6
055	22	4	2	5	4	3	0	4
007	21	4	0	5	4	3	0	5
050	21	5	2	0	6	1	0	7

謝辞：本調査を実施するにあたり、全国の多くの教育研究機関の皆様にご協力を賜りました。

心より感謝の意を表します。